

1. 連結 セグメント別 2003年度 売上高・損益増減比較(対前年実績)

(単位:億円)

	2002年度 実績	2003年度 実績	増減	増減率	メモ
売上高	3,121	3,407	286	9.2%	化学品部門 メタノール・アンモニア系
化学品部門	1,814	1,951	138	7.6%	メタノール系：メタノール価格上昇で誘導品を含め増収。ホルオール：同業撤退、中国需要伸長によるタイバランスで売上増。 MMA系：透明樹脂向け堅調、販売価格上昇。能力増強実施(02、03年度 各5千t/y)。
機能製品部門	1,117	1,282	165	14.8%	キシレン系 PMDA、MXナイロン等伸長。PX売上増。PTAは前年比悪化(02は新社へ在庫移管で数量増)。
その他部門・消去	191	174	▲17	▲8.7%	芳香族アルデヒドは、需要先の在庫調整による販売減。MXDA休止装置再稼働で修繕費増加。 新日本石油との水素-ベンゼン相互融通による売上高増加も。
営業利益	19	149	130	683.1%	工業薬品系 過酸化水素は新規工業用途向け始まるも、販価是正過程のシェアダウンで売上前年並み。
化学品部門	18	33	15	79.3%	化学研磨液は増収も、その他工業薬品は競争激化・需要減少。
機能製品部門	▲7	101	107	-	機能製品部門 インフラは、市況軟化傾向も、需要堅調で増収、子会社タイリアケルも増設完了し、順調 プリント配線板は、需要好調で増収。生産体制再編効果もあり改善。LEシートも順調に需要増加。
その他部門・消去	7	16	8	111.7%	ELMクリーン、レンズなどファインケミカルでは増収・収益改善。 E-レジスは輸出好調も国内競争激化。情報機能材不振継続。補酵素Q10は健康食品用途拡大等で伸長。
営業外損益	10	39	30	296.5%	
持分法投資損益	57	92	35	60.7%	持分法投資損益 市況高止まりで海外メタノール2社収益拡大、インフラ2社、新規適用アクアエスを含めJSPグループも順調。
金融収支	▲17	▲18	▲1	-	(持分法投資利益の大半はメタノール2社によるもの)
その他 営業外損益	▲30	▲34	▲4	-	
経常利益	29	189	160	550.6%	
特別利益	19	13	▲6	▲30.7%	
特別損失	63	52	11	18.0%	2002年度：有価証券評価損38億円など 2003年度：電子材料事業の集約化に伴う資産処分損等24億円、大阪工場PC製造設備廃棄など
税金等調整前当期純利益	▲15	150	165	-	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	△8	36	▲44	-	
少数株主利益または損失	△2	8	▲10	-	
当期純利益	▲5	106	111	-	

2. 連結 2003年度 貸借対照表(対 前年度末実績)

(単位:億円)

	2002年度 期末	2003年度 期末	増減	増減率	メモ
現金及び預金	250	246	△ 4	△ 1.4%	
受取手形・売掛金	831	970	139	16.7%	増加理由: 売上高の増加および債権流動化の減少
有価証券	122	70	△ 52	△ 42.8%	減少理由: 運用債の減少
棚卸資産	491	494	2	0.5%	
その他流動資産	109	138	29	26.1%	
＜流動資産 計＞	1,803	1,918	114	6.3%	
有形固定資産	1,714	1,619	△ 95	△ 5.6%	減少理由: 設備投資(125億) < 減価償却(195億)・除却・売却 (期末連結 AGIC 50億円)
無形固定資産	17	36	19	107.4%	
投資等	1,046	1,179	132	12.6%	増加理由: 有価証券の時価評価益増、持分法会社の持分剰余金増。繰延税金資産は減少。
＜固定資産 計＞	2,778	2,833	55	2.0%	
資産合計	4,581	4,751	170	3.7%	
支払手形・買掛金	620	690	70	11.4%	
有利子負債	1,940	1,843	△ 97	△ 5.0%	MGC 30億円減、エレクトロテクノ 35億円減、フォトクリスタル 22億円減 など。 (期末連結 AGIC 39億円)
その他負債	337	349	12	3.6%	
＜負債 計＞	2,897	2,883	△ 14	△ 0.5%	
＜少数株主持分＞	66	63	△ 3	△ 3.8%	
資本金・資本剰余金	775	775	0	0.0%	
利益剰余金	951	1,046	96	10.0%	当期純利益106億円。
土地再評価差額金	2	2	0	0	
その他有価証券評価差額金	△ 31	91	122	△ 393.6%	株式市況の回復
為替換算調整勘定	△ 40	△ 71	△ 31	77.2%	円高影響 @119.9 \$ /円 @107.1
自己株式	△ 38	△ 38	△ 0	0.1%	
＜資本の部＞	1,619	1,805	187	11.5%	株主資本比率 当期末 38.0% 2.7ポイント上昇。
負債及び資本合計	4,581	4,751	170	3.7%	

3. 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

	2002年度	2003年度	増減	メモ (2003年度の主な内訳)
現金・現金同等物 期首残高	282	337	55	
営業活動によるCF	245	197	△ 48	税前利益150億円、うち持分法利益92億円 償却費195億円、運転資金増加 65億円 (売上増、債権流動化減少)
投資活動によるCF	△ 164	△ 80	83	設備資金収支 100億円、有価証券・投資有価証券売買収支 +22億円
財務活動によるCF	△ 32	△ 143	△ 112	借入金・社債減少 124億円。自己株取得資金 4億円。配当金支払 15億円。
為替換算差異 他	△ 11	△ 7	4	
現金・現金同等物 純増減額	38	△ 34	△ 72	
連結追加・除外による増減	16	1	△ 15	
現金・現金同等物 期末残高	337	304	△ 32	

4. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

	02年度 実績	03年度 実績	04年度 予想	増減		増減率	
				02→03	03→04	02→03	03→04
設備投資額	158	125	190	△ 33	65	△20.8%	52.0%
(うち上期)	87	75		△ 12		△13.7%	
減価償却費	201	195	200	△ 6	5	△3.0%	2.5%
(うち上期)	99	98		△ 1		△1.4%	
研究開発費	115	105	105	△ 10	0	△8.7%	0.0%
(うち上期)	58	55		△ 3		△5.2%	
人員 (年度末時点)	4,729人	4,537人	4,403人	△192人	△134人	△4.1%	△3.0%

	02年度 実績	03年度 実績	04年度 想定	増減	
				02→03	03→04
一株当り 当期利益	△1.0円	22.9円	28.1円	23.9円	5.2円
ROA (総資産経常利益率)	0.6%	4.0%	4.1%	3.4pts	0.1pts
ROE (株主資本経常利益率)	1.7%	11.0%	10.5%	9.3pts	△0.5pts
配当額 (うち上期)	3.0円 0.0円	4.0円 0.0円	5.0円 2.5円	1.0円 0.0円	1.0円 2.5円

メモ(人員): 02→'03 人員減少は主に単体と日本サーキットによる。子会社化など基準変更による増加 30人。
03→'04 人員減少は主に単体による。

5. 経営環境

	2002年度実績		2003年度実績		2004年度予想		メモ
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	
メタノール市況 (\$/MT)	130~140	200~210	250~260	230~240	220~240	190~210	

	2002年度実績		2003年度実績		2004年度予想		メモ
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
原料キシレン 公示価格(円/kg)	39	43	45	47	54	54	
為替 (円/\$)	122		113		105		◇ 2002年度 上期:123円、下期:121円 ◇ 2003年度 上期:118円、下期:108円

銅張積層板/BTLレン等 売上高指数推移	2000年度		2001年度		2002年度		メモ	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	100	75.8	48.2	50.9	53.2	52.7		◇ 2000年度上期を100とした場合の指数表示
	2003年度		2004年度 予想					
上期	下期	上期	下期					
	64.3	74.4	75.9	73.3				

6. 連結 セグメント別 2004年度 売上高・損益増減比較(対前年実績)

(単位:億円)

	2003年度	2004年度	年間増減 03→04	メモ
	通期実績	通期予想		
売上高	3,407	3,580	173	03年度為替レート 113円/\$、04年度為替レート 105円/\$
化学品部門	1,951	2,020	69	化学品部門 メノール・アモニア系：メノール市況は下降傾向。逆ザヤ縮小。MMA、ホリオール等で旺盛な需要を背景に増販・価格上昇。
機能製品部門	1,282	1,380	98	MMA・NPGは償却費減少（MMA：04年度 3億円、05年度 7億円）。アモニアは定修年で悪化。 キリン系：特殊芳香族の販売回復、MXナイン、イソフロン酸堅調を見込む。イソフロン酸は休止設備再稼動(7万t 12万トン)
その他部門・消去	174	180	6	PX-RXスプレッドは縮小。キリン系の売上高増分の5割はAGIC子会社化、会計処理変更に伴うもの。 工業薬品系：過酸化水素はシェア回復、非塩素漂白取り込み等で増販。ヒドランはJ/Vによる事業構造改善で赤字解消。
営業利益	149	165	16	機能製品部門
化学品部門	33	45	12	レジモマー拡販。合成樹脂はタイでの増設が功に寄与。 PC、POMは市場が広がり増収も、競争激化・原料価格上昇などで収益は横ばい。
機能製品部門	101	104	3	電子材料は引き続き堅調を見込む。エレクトロ社は生産能力増強（05年度稼働予定）
その他部門・消去	16	16	0	
営業外損益				
持分法投資損益	92	77	▲ 15	メノール市況の低下などによりメノール関連持分法損益は減少。 エンブラ系・キリン系会社も減益予想。
その他 営業外損益	▲ 52	▲ 47	5	為替差損減少など
経常利益	189	195	6	
特別損益	▲ 39	▲ 18	21	2004年度 新鉱床探鉱費 12億円 など 2003年度 電子材料事業構造改善費用 24億円、エンブラ生産集約に伴う設備廃棄損 6億円 など
税金等調整前当期純利益	150	177	27	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	36	38	▲ 2	
少数株主利益または損失	8	9	▲ 1	
当期純利益	106	130	24	

7. 単体 セグメント別 2003年度・2004年度 売上高・損益増減比較(対前年実績)

(単位:億円)

	2002年度	2003年度	2004年度	増減		メモ																																																						
	実績	実績	予想	02→03	03→04																																																							
売上高	2,146	2,406	2,500	260	94	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">売上高要因分析</th> <th colspan="3">対前年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th>02年度</th> <th>03年度</th> <th>増減</th> <th>数量要因</th> <th>価格要因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学品部門</td> <td>1,383</td> <td>1,495</td> <td>112</td> <td>40</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>メタ・アンモ系</td> <td>588</td> <td>664</td> <td>75</td> <td>20</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>キシレン系</td> <td>627</td> <td>667</td> <td>40</td> <td>23</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>その他工業薬品</td> <td>168</td> <td>164</td> <td>▲4</td> <td>▲3</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>機能製品部門</td> <td>746</td> <td>885</td> <td>139</td> <td>132</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>その他部門</td> <td>17</td> <td>26</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,146</td> <td>2,406</td> <td>260</td> <td>181</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table>	売上高要因分析			対前年度				02年度	03年度	増減	数量要因	価格要因	化学品部門	1,383	1,495	112	40	71	メタ・アンモ系	588	664	75	20	55	キシレン系	627	667	40	23	17	その他工業薬品	168	164	▲4	▲3	▲1	機能製品部門	746	885	139	132	7	その他部門	17	26	9	9	0	合計	2,146	2,406	260	181	79
売上高要因分析			対前年度																																																									
	02年度	03年度	増減	数量要因	価格要因																																																							
化学品部門	1,383	1,495	112	40	71																																																							
メタ・アンモ系	588	664	75	20	55																																																							
キシレン系	627	667	40	23	17																																																							
その他工業薬品	168	164	▲4	▲3	▲1																																																							
機能製品部門	746	885	139	132	7																																																							
その他部門	17	26	9	9	0																																																							
合計	2,146	2,406	260	181	79																																																							
化学品部門	1,383	1,495	1,533	112	38																																																							
機能製品部門	746	885	944	139	59																																																							
その他部門	17	26	23	9	▲3																																																							
営業利益	▲11	56	80	67	24																																																							
営業外損益	9	4	0	▲5	▲4																																																							
経常利益	▲2	60	80	62	20																																																							
特別益	▲41	▲22	▲12	18	10																																																							
税引前当期純利益	▲43	38	68	80	30																																																							
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	△22	10	13	▲32	▲3																																																							
当期純利益	▲21	27	55	48	28																																																							

8. 連結カンパニー別 2003年度・2004年度 売上高・損益増減比較(対前年実績)

(単位:億円)

	03年度 実績	04年度		増 減		協創2005 計画		メモ
		通期予想	内、上期	02→03	03→04	03年度	04年度	
売上高	3,407	3,580	(1780)	286	173	3,280	3,490	天然ガス系化学品カンパニー 2003年度実績(対2002年度) マノル市況上昇で売上高増加。MMA系、ポリオール、需要増大。アソニアは定修ストップ。 補酵素Q10好調。原油販売増。海外マノル2社の持分法利益を加えた経常利益は大幅拡大。 2004年度予想(対2003年度) 逆ザヤ縮小。MMA系・ポリオールの数量・販価改善。補酵素Q10は数量増も価格減。 アソニア定修。原油販売は減少。マノル市況低下により持分法利益は縮小。
天然ガス系化学品カンパニー	920	928	(455)	73	7	933	959	芳香族化学品カンパニー 2003年度実績(対2002年度) 汎用石化品は原料価格上昇を反映し増収。売上は前年並もRX高値推移などで営業利益減。 PTAは02下期よりJ/V販社へ移管。02年度の市況高値と在庫移管に対して、03年度は減収。 MX対印は伸長。MXDA休止設備再稼働で固定費増。芳香族アルデヒドはユーザ在庫調整等で売上減。 フドーも収益改善。 2004年度予想(対2003年度) 芳香族アルデヒドの需要回復、MX対印の堅調を見込む。PA-7外酸系もコスト転嫁で改善。 売上増分の約半分はAGIC子会社化、会計処理変更によるもの。
芳香族化学品カンパニー	824	935	(467)	43	112	808	838	機能化学品カンパニー 2003年度実績(対2002年度) 汎用石化品は原料価格上昇を反映し増収。売上は前年並もRX高値推移などで営業利益減。 PTAは02下期よりJ/V販社へ移管。02年度の市況高値と在庫移管に対して、03年度は減収。 MX対印は伸長。MXDA休止設備再稼働で固定費増。芳香族アルデヒドはユーザ在庫調整等で売上減。 フドーも収益改善。 2004年度予想(対2003年度) 芳香族アルデヒドの需要回復、MX対印の堅調を見込む。PA-7外酸系もコスト転嫁で改善。 売上増分の約半分はAGIC子会社化、会計処理変更によるもの。
機能化学品カンパニー	807	845	(415)	80	38	781	863	特殊機能材カンパニー 2003年度実績(対2002年度) BT系材料 需要急増、LEシート好調。日本サーキット黒字化。ILK対クノへの生産移管は3月末完了。 脱酸素剤: 輸出は好調も国内競争激化。天候不順も影響。 情報機能材: 不振継続。 2004年度予想(対2003年度) 電子材料は引き続き需要拡大見込みも、収益の伸びはやや鈍る。ILK対クノ能力増強は05年3月完成。 E-インクは競争が激しいが比較的安定。情報機能材は前年度で底を打ったと見られるが依然低迷。
特殊機能材カンパニー	507	550	(273)	76	44	468	539	コーポレート等 2003年度実績(対2002年度) 汎用石化品は原料価格上昇を反映し増収。売上は前年並もRX高値推移などで営業利益減。 PTAは02下期よりJ/V販社へ移管。02年度の市況高値と在庫移管に対して、03年度は減収。 MX対印は伸長。MXDA休止設備再稼働で固定費増。芳香族アルデヒドはユーザ在庫調整等で売上減。 フドーも収益改善。 2004年度予想(対2003年度) 芳香族アルデヒドの需要回復、MX対印の堅調を見込む。PA-7外酸系もコスト転嫁で改善。 売上増分の約半分はAGIC子会社化、会計処理変更によるもの。
コーポレート等	349	321	(169)	13	▲28	290	291	
営業利益	149	165	(75)	130	16	90	160	機能化学品カンパニー 2003年度実績(対2002年度) 過酸化水素、ヒドラン、ルイトールワイトなど汎用品は競争激化もあり伸び悩み。EL薬品、レンズモマは伸長。 エングラ内外市場拡大。TPAC増設後も順調。PPEはシガポールJ/V品に完全切り替え。 2004年度予想(対2003年度) 過酸化水素復調。EL薬品・レンズモマの堅調継続などで収益改善。ヒドランはJ/Vで事業構造改善。 合成樹脂は増収も競争激化で価格面悪化見込む。PPEはシガポールJ/Vの稼働が安定することで改善。 EL子会社はコスト削減で改善。
天然ガス系化学品カンパニー	16	25	(10)	19	9	14	31	特殊機能材カンパニー 2003年度実績(対2002年度) BT系材料 需要急増、LEシート好調。日本サーキット黒字化。ILK対クノへの生産移管は3月末完了。 脱酸素剤: 輸出は好調も国内競争激化。天候不順も影響。 情報機能材: 不振継続。 2004年度予想(対2003年度) 電子材料は引き続き需要拡大見込みも、収益の伸びはやや鈍る。ILK対クノ能力増強は05年3月完成。 E-インクは競争が激しいが比較的安定。情報機能材は前年度で底を打ったと見られるが依然低迷。
芳香族化学品カンパニー	48	50	(26)	▲3	2	43	54	コーポレート等 2003年度実績(対2002年度) 汎用石化品は原料価格上昇を反映し増収。売上は前年並もRX高値推移などで営業利益減。 PTAは02下期よりJ/V販社へ移管。02年度の市況高値と在庫移管に対して、03年度は減収。 MX対印は伸長。MXDA休止設備再稼働で固定費増。芳香族アルデヒドはユーザ在庫調整等で売上減。 フドーも収益改善。 2004年度予想(対2003年度) 芳香族アルデヒドの需要回復、MX対印の堅調を見込む。PA-7外酸系もコスト転嫁で改善。 売上増分の約半分はAGIC子会社化、会計処理変更によるもの。
機能化学品カンパニー	40	51	(18)	37	11	49	70	
特殊機能材カンパニー	50	57	(32)	65	7	5	23	
コーポレート等	▲4	▲17	(▲10)	12	▲12	▲21	▲18	
(持分法投資利益)	(92)	(77)	(47)	(35)	(-15)	(77)	(49)	